

2021年度

巖  
鷲  
寮  
誌

佐藤・新渡戸記念寮

創立 94 周年

# 巖鷺寮誌

2021 年度

一般財団法人巖鷺寮

巖鷺寮一心会

*Be social, be gentleman.*

(解説) 巖鷲寮の創立以来のモットー。後半部分は札幌農学校のウイリアム・スミス・クラークが1期生に与えた言葉を佐藤昌介が伝えたもので、学寮(恵迪寮)のモットーと共通している。この後半部分は“be gentlemen”でなければならないという指摘もある。

# コロナ禍 2年目の 巖鷺寮

寮長 清野 佑弥



2021年度後期の寮長を務めております清野佑弥です。歴史ある巖鷺寮で寮長を務めさせて頂けることを大変嬉しく思います。

今年度も、昨年度と同様に新型コロナウイルス感染症の影響を受けながら寮生活を送っています。普段の寮での暮らしは、オンライン授業でずっと寮にいる人、アルバイトに行く人、部活やサークルに打ち込む人、研究や実習で忙しい人など様々です。

不便を強いられる場面も少なくはありませんが、昨年と比べ状況が好転した面もあります。今年は、昨年中止になった入寮式を無事開催することができました。今年の入寮式では、学部1年生6名、修士1年生1名、計7名の新入寮生を迎え入れることができました。このような状況ですが、北海道での生活を少しでも楽しんで頂けたら幸いです。非常に多くの新入寮生が入り、寮の雰囲気にも変化を感じます。

昨年からのことですが、オンライン授業のために大学に行く機会が減り、寮生の生活における、寮での時間の比重が高まったように感じます。昨年から寮の裏庭のスペースを使って、畑を始めました。通称「巖鷺畑」は2年目を迎え、たくさんの野菜を収穫することができました。

また、寮生同士で遊んだり、食事したりすることも増えたように感じます。私自身、同期や先輩と出かける機会が多々ありました。他の寮生も、寮生同士で出かけているようです。以前寮母さんが、スマートフォンの普及とともに寮生同士で出か

けることが減ったと言っていたことを覚えています。寮生の結びつきが強くなったことは、コロナ禍の中での良いことの一つだと思います。コロナ禍での寮生活・大学生活ですが、悪いことばかりではありません。

寮の外部の人との関係が希薄になりがちなこのご時世において、寮の人間関係は非常に重要になると思います。偶然会えば会話し、約束して何かをすることもありますが、互いに干渉しすぎることもない、そんな程よい人間関係を築けていると思います。これは巖鷲寮の強みであり、今の時代において非常にありがたいことだと思います。

これまで、巖鷲寮では、1人も新型コロナウイルス感染者が出ていません。これは理事会の皆様や寮母さんによるきめ細かな対策や寮生の協力のおかげです。日常が戻ることを信じて、これからも寮生一同対策を怠らぬで行ってまいります。

最後になりますが、この寮誌を作成するにあたってご協力頂いた皆様、そして巖鷲寮に携わり、支えて下さっている全ての皆様に、この場をお借りしてお礼申し上げます。』

前ページの写真 小樽のばんじゅう屋にて



# with コロナ, after コロナ

## 一般財団法人巖鷺寮

理事長 昆 泰寛

財団法人「巖鷺寮」は昭和2年(1927年)に設立され、今年度の寮祭式典で94周年を迎えました。現在、管理運営する4代目の佐藤、新渡戸記念寮(巖鷺寮)は、新築・再開寮から実に22年を経過し、ますます風格を帯びてきております。当初は、旧南部藩(岩手県、青森県南部地方、秋田県鹿角地方)出身学生に対する郷土寮として設立されたものの、現在は全国から寮生を募集しています。



今年度もコロナで始まりコロナで終わる、異例の年となりました。2020年2月の札幌雪まつり直後から我が国に蔓延した COVID-19 は、2021年12月時点では第5波の終焉を迎え、一応落ち着いた状況が続いている今日この頃です。この間、北海道で約6万1千人、我が国で約173万人、地球上でなんと2億6千万人の感染者を記録しました。我が国の倒産企業は1860社、結婚式の中止・延期が4組に1組などのデータも出ています。2回のワクチン接種率は約80%を超え集団免疫が出来上がりつつあるものの、南アフリカから新たな COVID-19 変異株(オミクロン株)の出現が報告されていることから、第6波への警戒を強めなければならないでしょう。

こういった状況で、意外にも寮生活が見直されてきています。2021 年度は7名分の入寮選考をしなければならず、空室が果たして埋まるか否か、戦々恐々とした面持ちでした。蓋を開けてみると、2021 年度入寮希望者は、なんと前代未聞の 39 名を数えました。希望者が急増した一因としては、北大生協へ募集委託したことが挙げられますが、コロナ禍に一人暮らしをする一抹の不安があったのではないのでしょうか。一人ではないという安心感と規則正しい生活を保障する寮生活が、with コロナのライフスタイルにマッチしていたのでしょうか。さらに、寮母ならびに財団による生活面を中心とした管理運営は、通常では鬱陶しい思いがあるのではと推察されますが、コロナ禍ではむしろ常に見守ってもらえているという安堵感をもたらしているのかもしれませんが。寮では恒例となった、入寮式典、寮祭式典ならびに卒寮式典を中止することなく開催するため、「佐藤新渡戸記念寮 COVID-19 対応マニュアル」「式典における COVID-19 対策」を作成・改訂し、挙行してきました。こういった稀有な状況で入寮を果たした白勢央樹くん、宮本玄樹くん、金澤秀太朗くん、粒來 綾さん、望月亜依さん、小林 彩さん、遠藤志麻さん、入寮おめでとう。決して忘れることのない年となるでしょう。共に寮の歴史 with コロナバージョンを作って行ってください。

テレビを見ていると、こんなどうでも良いような騒ぎが報じられました。どこぞの議員さんが議会中の鼻出しマスク姿を注意され、議会での発言を議長によって拒否されたことに腹を立て、不服申立ての裁判を起こしたニュースが流れていました。現代社会で高等教育を受け、かつ社会で一定の地位を有する者なら、誰でも知る常識を反芻し、誠実かつ真摯な気持ちで反省する姿勢が欠けている彼に一言、言ってやりたい。“Be gentleman!”。またどこかの国では、政治・政策の失敗がコロナ禍を拡大させていると、マスクもしないままの国民が暴徒化しているとのニュース。肌を直接接触させることで親愛の情を表す国民性には、マウスは不釣り合いなのか、はたまた単に基本的感染対策と礼儀作法の欠如なのか。そんな国民に一言、言ってやりたい “Be social!”。

寮の行事 with コロナバージョンでは、大きなデメリットがあります。寮生の顔と名前が一致しません。個人情報の観点から、ホームページに掲載していくのも非常識だし、なるべく寮生と接する機会を見つけていくことが最良の解決策でしょうね。その点、寮生活の永い須藤大智くん、久語佑希くんは顔も名前もキャラクターもバッチリ！卒業おめでとう。大いなる飛躍を祈念します。そう遠くない将来において、コロナ禍は過去のものとなって、一般の風邪と同じような扱いになるでしょう。従前の式典が行われるとともに、after コロナの寮生活が送れる時が必ずやってきます。寮創立100周年の足音がそろそろ聞こえてきそうな時節となりました。その頃には、after コロナを満喫している私たちがいるに違いありません。本寮関係者のみなさまの更なるご健勝をお祈りいたします。☺

前ページの写真 2021年某月某日、旭川高砂酒造にて、辛口一献！



# 2021 年度巖鷺寮誌

## 目 次

巻頭言 コロナ禍2年目の巖鷺寮……………寮長 清野 佑弥 …… i

With コロナ, after コロナ……………理事長 昆 泰寛 …… iii

### 〈特別寄稿〉

省三さん紅子さんの春夏秋冬……………廣嶼 康子 …… 1

山梨県立美術館での現代アート展について……………太田 智子 …… 6

十勝宮古航路の夢……………千葉 博正 …… 13

13年間の海外駐在を通して……………佐々木 泰弘 …… 17

外務大臣に表彰されたキーン昭子さん……………野崎 希代美 …… 24

40年前の巖鷺寮と岩手在住の卒業生について……………菅野 正男 …… 27

### 〈エッセイ広場〉

札幌の冬について……………梅木 育子 …… 33

「燃えない進化」の時代……………塚本 博隆 …… 36

「カッコいい」男……………田村 浩志 …… 38

### 〈寮生のページ〉

#### 寮生近況

……………	45	……………	46
……………	47	……………	49
……………	50	……………	51
……………	53	……………	54
……………	56	……………	57
……………	58	……………	59
……………	61	……………	62
……………	65	……………	66
……………	67		

## 〈一心会のページ〉

巖鷲寮バーチャル談話会への誘い……………吉田 春雄 ……	69
冬期オリンピック選手監督の帰朝歓迎会が巖鷲寮で —ただし今から90年前の話です—……………	71
巖鷲寮一心会早わかり……………	71
[付録] 巖鷲寮一心会規約……………	73

## 〈法人のページ〉

2020 年度事業報告書……………	75
資料1：2020 年度損益計算書……………	80
資料2：一般社団法人巖鷲寮定款……………	81
資料3：一般社団法人巖鷲寮規則……………	88
2021 年度一般財団法人巖鷲寮役員名簿……………	90
寮日誌……………	91
2021 年度寮生名簿……………	92
編集後記……………	93



表題題字：佐藤 昌介（男爵、日本初の農学博士、北大初代総長）

カット：板橋 咲奈

## 省三さん紅子さんの春夏秋冬

廣嶼 康子

このタイトルは、野の花美術館で年に一度、長い冬の始まる12月から芽吹き季節を迎える3月まで開催される企画展の名称です。省三さん紅子さんは、互いの実力を認め合いながら、多くの作品を世に送り出しました。連れ添って70年、未公開作品も多く、世に出す機会を願った企画です。



街の中心を流れる清流・中津川のほとりに建つ  
野の花美術館

美術館は、盛岡の街の中央を流れる中津川にかかる与の字橋の側の、川沿いに建つ小さな美術館です。川向こうには岩手県民会館、盛岡市役所、県公会堂、岩手県庁、新聞社、テレビ局等々、岩手の中樞を担うエリアがあります。そして盛岡には失われたとは云ってもかなり古い家並も残り、それが共存しながら古い町を形

作っています。美術館のすぐそばには、高い火の見櫓のある番屋の五分団が大切に保存されています。秋の中津川には鮭が遡上し、初夏には釣り人達が鮎や山女を狙う。美術館の前を散歩するワンちゃん達と、挨拶を交わしながら、見飽きぬ風景の中で一日が始まります。



中津川原の忘れな草

野の花美術館は、平成8年に市民運動により建設されました。戦後にいち早く絵画教室で学んだ人々の輪は大きく、そして紅子さんの同窓生達の結束も堅固でありました。昭和13年省三さんは、従軍画家としてモンゴルに渡るが、写生旅行をしばしば行う省三さん



は、その前年札幌の巖鷲寮に滞在し、しばし写生に明け暮れる日々を過ごしたと思われま。滞在中のスケッチブックは

現存せず残念です。大きな旅の前に、北海道に渡ったように思えてなりません。

(編集者註一文末参照)



長い戦いは敗戦で終わり、紅子さんは遅くなった息子さん達と娘さんと共に、盛岡に帰る。やがて命かながらモンゴルを脱出した省三さんは、やっと盛岡で家族と合流し、雫石の暮らしが始まります。

省三さんは故郷に帰る道々、疲弊した日本の子どもたちの環境の貧しさを知り、楽しく絵を描く時を共にしたいと考え、敗戦の翌年“日曜図画教室”を開設する。私も通う子供の一人でしたが、すぐに絵を描く面白さを知りました。いつの間にか引込み思案も直ったようです。昭和22年には、県公会堂の地階（現存する）で青年達を中心とする岩手美術研究所を開設。



終戦後、深沢省三・紅子夫妻によって児童・生徒を対象に行われた日曜図画教室。写真は昭和24年(1949年)の写生遠足(於盛岡市愛宕山)。生徒・父兄の2列目中央が深沢省三氏。美術教室の先駆けで、多い時には300人を超える子供たちが教室に集った。

花巻の山荘で暮らす高村光太郎さんを師と仰ぎ、舟越保武、森口多里、橋本八百二、池田龍甫、堀江赳(タケシ)などが敗戦によって岩手の地に集合し、やがて本格的な美術教育が始まった。そして全国初の岩手県立美術工芸学校が誕生し、更に岩手県立盛岡短期大学



子供たちたちの作品を紹介した新聞記事の展示会場に掲示された省三・紅子夫妻の写真

工芸科になり、やがて岩手大学学芸学部特設美術科として発展する。省三さんは大学の教授となり、退官の日を迎え、やっと東京宅の紅子さんのもとに帰った。省三さんは、画家本来の生活に戻り、存

分に絵を描き多くの絵画を残され 94 才で逝去。紅子さんは一年後の同日、命を全て使い果たすかのように就寝中に逝去。省三先生のもとに旅立たれました。♡



ひろしま やすこ

1963 年 多摩美術大学芸術学部卒業。岩手日報社勤務の後、1999 年野の花美術館のためのサポート団体「忘れな草の会」を立ち上げ、以来活動を続ける。2019 年 深沢紅子野の花美術館館長就任。

**編集者註** 佐藤新渡戸記念寮にはかなりの数の絵画が保存されています。油絵も数点ありますが、大分部は芳名録や色紙に描いたものです。省三先生が残した真駒内の種牛のスケッチは、次頁に示すように『芳名録四巻』中の 2 頁にわたってはみ出すように大胆に描かれています。80 年の歳月を経て退色が進んでいますが、雄牛の迫力が目のあたりから伝わってきます。当時、神聖とみなされていた元号を「笑和」と、文字通り笑い飛ばすなど、描いた人の豪胆さがうかがわれる作品でもあります。

元理事長の三浦四郎は 1983 年に刊行

された『巖鷲寮創立五十周年記念誌』に、寮と画家などの「文人」との関係を次のように説明しています。

「(本寮の) 創立後五年、昭和七年までは千客万来の賑やかさがあり、県人名士の来訪も多かったのは、多数の郷土有志の御援助によって結晶した、当時としては珍しい文化施設を持つ学生寮だったためであろう。(中略) 画家の小笠原寛三氏、五味清吉氏、深沢省三氏は寮に泊まれ、寮生に親しまれながら描いておられた。その影響で県人ではないが原田彦太郎(梨白)、中川勝富、立石鉄臣、東晃画伯も寮に身を寄せ、何日間かを寮生とともに

に生活された。」

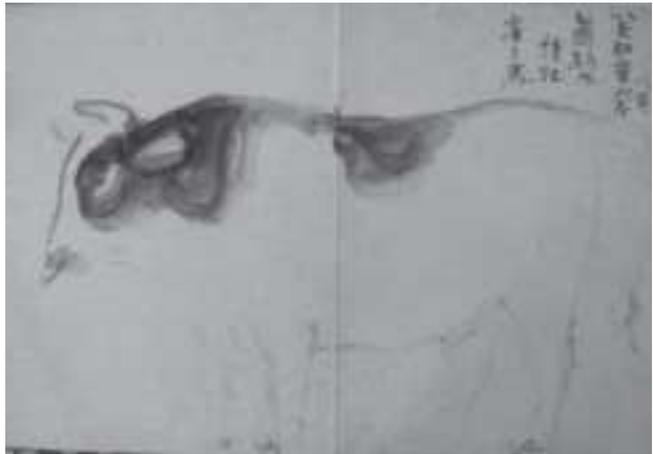
(上篇 58 頁)

同記念誌の記録によると、昭和 12 年 (1937 年) 6 月 30 日の項に「新里寛一氏、深沢省三画伯の歓迎会。」

(上篇 12 頁) とあります。この写真はその後『創立九十周年記念誌』の資料編の表紙に掲載されています。その説明には、

「長期にわたる内蒙古の滞在から帰国した直後のことという」とあります。本記事からこの部分は内蒙古に渡る前の年と訂正されなければなりません。残された絵には「笑和重二年八月」とありますので、省三先生は昭和 12 年の 6 月末から 8 月までの一ヶ月以上本寮に滞在され、寮生と同じ屋根の下で同じ釜の飯を食べながらスケッチ三昧の生活を楽しまれたこととなります。

なお、最近、同美術館職員の渡邊薫さまから、省三先生の別の絵の存在を教えてくださいました。右のスケッチは、昭和 32 年 3 月 15 日付の岩手日報に掲載された元岩手県知事国分謙吉の座談記事の挿絵ですが、先生が昭和 12 年の札幌滞在中に、クラーク像付近で描いたものでし



画家の深沢省三は 1937 年 (昭和 12 年) 6 月から 8 月にかけて巖鷲寮に滞在してこの絵を残した。従軍画家として長期にわたった内蒙古滞在が始まる前年のことだった。(2017 年刊行の『巖鷲寮誌九十周年記念誌』の資料編の表紙の写真を再掲し、説明文を改訂した。)

よう (故深沢省三氏の親族の許可を得て転載)。

添え書きに「札幌農大」とあるのは、明治 39 年に時の内務大臣原敬が、東北帝大の新設と札幌農学校の大学昇格を抱き合わせて立案した時に使われた北大の歴史的な名称です。(小笠原 正明)



## 山梨県立美術館での現代アート展について

太田 智子

### はじめに

私は2000年に北大に入学、2004年に学部を卒業し、大学院に進学するため北海道を離れました。4年間の北海道生活は、そのまま巖鷲寮で過ごした日々でした。美術史という学問を学びたいと思い、修士課程でも勉強を続けました。院を出たあとの就職先として美術館の学芸員になりたいと、博士課程の1年目にいくつかの館の試験を受けました。その中で、山梨県甲府市にある山梨県立美術館で採用となり、2006年10月から同館に勤めて現在に至っています。

大学で勉強していたのは17世紀のバロック時代の美術でしたが、就職したのは現代美術担当のポジション。前任者が大変優秀な方であり、とても務まらない状態が長く続きましたが、昨年度やっと、館にとっても自分にとっても重要であったと言える現代アートの展覧会を開催することができましたので、本稿にて紹介させてい

ただければと思います。

### 特別展「栗田宏一・須田悦弘展」

展覧会は「栗田宏一・須田悦弘展 — Contentment in the details —」という名称で、2020年11月から21年1月にか



写真1 図録 二人展だったため表紙も二種制作。須田の作品が表紙のヴァージョン。一般書籍としても販売した。

けて開催されました。栗田宏一氏と須田悦弘氏という、山梨県出身の現代アーティストの二人展という形式であり、50代で活躍中のアーティスト二人と一緒につくらせていただいた展覧会となりました。

山梨県立美術館は、地方の公立美術館のため、山梨県出身、在住などゆかりのある作家を常にチェックし、その活動を紹介することを使命の一つとしています。栗田氏と須田氏は、国内外の現代アートのさ

まざまな展覧会で活躍されており、ぜひ特別展できちんと取り上げるべきアーティストであると考えていました。特別(企画)展と呼ばれる、所蔵品の展示とは別に開催される展覧会は、通常2~3年前から準備をします。大型の展覧会となると5年程度かかる場合もあります。また、学芸員が企画を構想し、実現させるには、更に長い年月が必要ということもあるでしょう。お二人を含めた何人かの山梨県

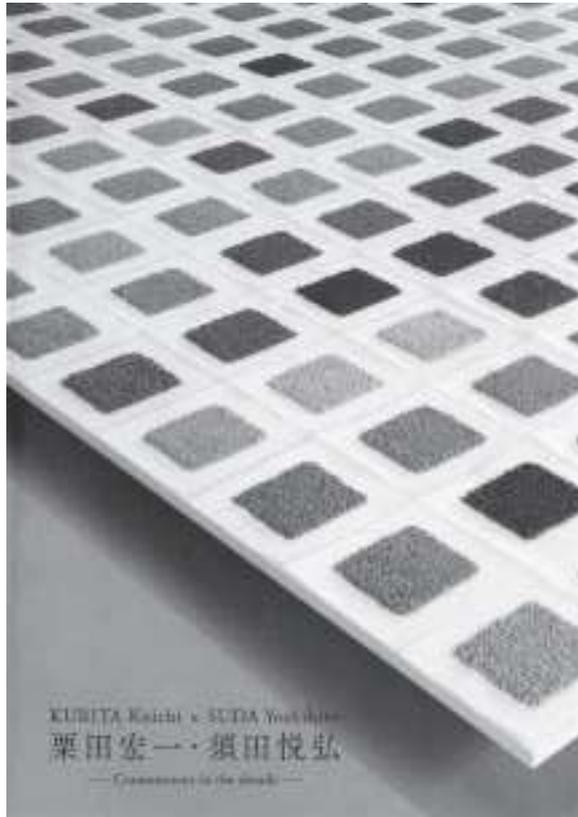


写真2 図録 栗田の作品が表紙のヴァージョン。美術館のみの限定販売。

出身アーティストの展覧会については何年も考え続けてきましたが、栗田氏と須田氏を二人展という形で取り上げようと思うに至り、特に1年前からは準備を本格化させていきました。

その矢先、新型コロナウイルスの登場により、状況が大きく変わりました。社会のあらゆる分野が打撃を受け、1回目の緊急事態宣言により美術館も休館となり、展覧会の準備のために必要な移動は

大きな制約を受けることになりました。  
しかし、休館・休園の中、子どもたちが遊ぶ自宅で展覧会図録のための論考を執筆しながら、むしろこの状況こそ展覧会の意義を深めるのではないかと考えるよう

になりました。

## 栗田宏一と須田悦弘

栗田宏一は、日本国中すべての市町村の土を拾い、集めて展示する、という作

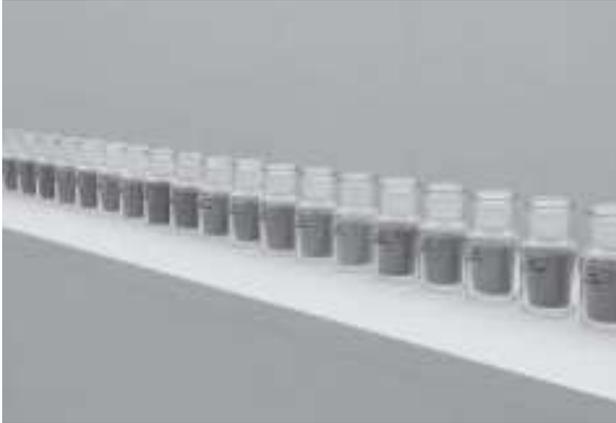


写真3 栗田の作品《SOIL LIBRARY / YAMANASHI》 山梨県内の64の旧市町村から集めた100の土が瓶に入っている作品。瓶には採集地のラベルが貼られ、グラデーションになるよう並べられている。その多彩な色に驚かされる。[写真提供 青柳茂]



写真4 栗田宏一《SOIL LIBRARY / JAPAN》 北海道から沖縄まで全国から集めた1000の土。四角い和紙に一つ一つ並べられた土には、どこか崇高さすら感じられる。[写真提供 青柳茂]

家です。平成合併前の旧 3233 市町村を回り、土が露出しているところで、ほんの一握りだけ土を採取します。それを丁寧に乾かし、ゴミなどを除くと、土は本来の色を見せます。この土の色というのは実に驚くべきもので、土などという、ごく身近な足元の物質が、これほどにも多彩な色を有していることを私たちは栗田の作品によって知ることができます。

須田悦弘は、朴の木で彫った植物の彫刻を、空間にさまざまなかたちで置くという発表をしています。その植物の木彫は非常に精巧で、本物と見紛うものなのですが、空間に絶妙なかたちで配されます。あたかも本物の植物が生えていそうな場所であったり、逆にあり得ない

かたちで設置されたり。木彫により周りの空間そのものが変容してしまうような、私たちの鑑賞という行為を強く揺さぶる体験をもたらします。

栗田・須田の両者には、土と植物という、自然のものをテーマとしている点、そして小さなものに目を向ける姿勢が共通していると感じ、その点が二人を組み合わせた展覧会を考えたいきっかけでもありました。二人はさらに、自然の中のごく小さく、普段人が見過ごしてしまうか



写真 5 須田の作品《桔梗》 壁の隙間に生えているかのように設置された植物の木彫。繊細さと意表をつく展示場所が魅力。[写真提供 須田悦弘]

もしれないものを独自の視点で取り上げ、約 30 年もの間ほぼスタイルを変えることなく発表し続けていました。二人展の準備を進める中で、これら共通点は、故郷・山梨で培われたということ強く感じるに至りました。

## 山梨というルーツ

山梨県出身のアーティストであれば、その姿勢の背景に故郷があるのは当然と思われるかもしれませんが、その点を強

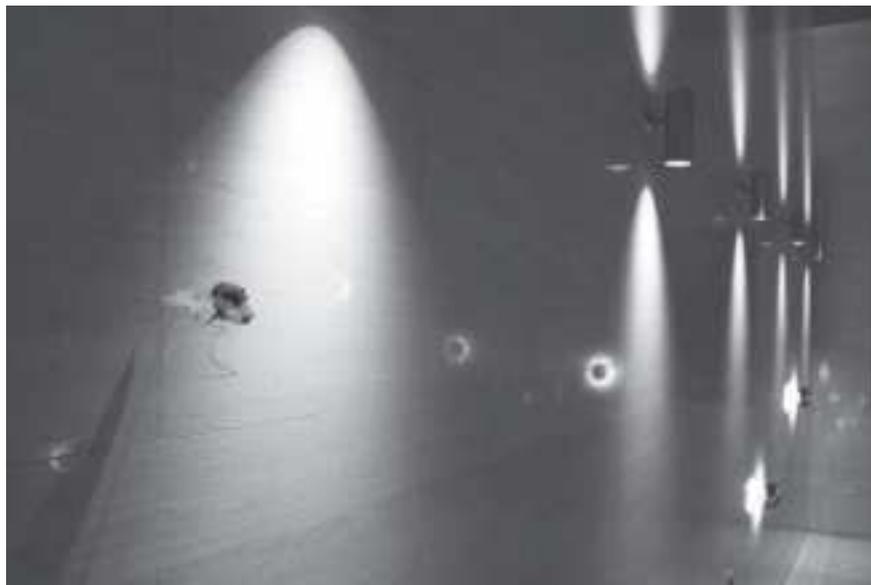


写真6 須田悦弘《朝顔》 美術館の吹き抜けのエントランスに展示された朝顔  
[写真提供 須田悦弘]

調し過ぎると、地元美術館での“郷土の作家”という括りによる矮小化をもたらしてしまうのではないかと懸念していました。しかし、この展覧会をとおして考えた二人の姿勢と山梨とのつながりは、作家・作品を理解する上で非常に重要であり、新たな見方・解釈をもたらすことになりました。さらにそのヴァナキュラーさ、つまり「地方性」あるいは「郷土性」は、今という時代においても実に深い意義を持っていると感じられたのです。

栗田は山梨に古来より

残る丸石神という風習を自らの根底に挙げています。もともとは自然に丸くなった石を祀ったもので、山梨ではこれが道祖神にもなっており、村や町中の辻など

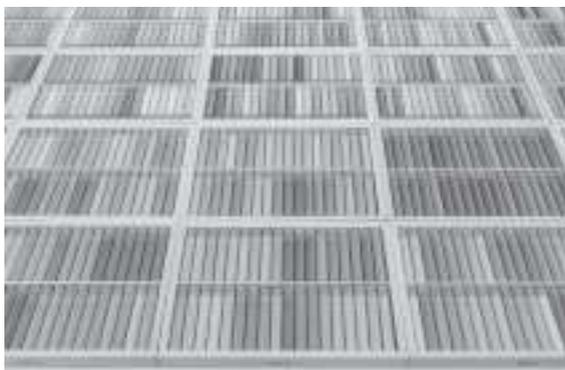


写真7 栗田宏一《SOIL LIBRARY / JAPAN(7920)》 細い瓶に入れられた日本全国の土。2万本以上から約8千本をセレクトして展示した。[写真提供 青柳茂]

でも今でも見ることができます。自然の石に手を加えず祀るという考え方は、採取した土に着色など手を加えることなくそのままの状態で見せる、という栗田の表現と結びついています。須田は、観光農園を営む家で緑に囲まれて育ち、東京に出て植物のない生活をする中で、それまで関心のなかった草花を制作の対象としていきます。そして、あたかも植物につくらされているような感覚を持ち、その作品は客体であるはずの植物と人間との主客の反転すら起こすと評されます。この植物との対等な、あるいは植物を主体とする須田の作品には、植物から生活の

糧を得ていた故郷の家業が投影されていると考えられたのです。

## 現代における意味

展覧会のサブタイトルである“Contentment in the details”は、禅宗のもととなった老子の言葉に着想を得たものでした。小さいが大切な“details”に目を向けることが、精神的な充足を意味する“contentment”につながり得る可能性を表しています。約100年ぶりのパンデミックで、ウイルスという目に見えない小さなものに翻弄される私たち。しかしそのことが、ウイルスのような小さなも

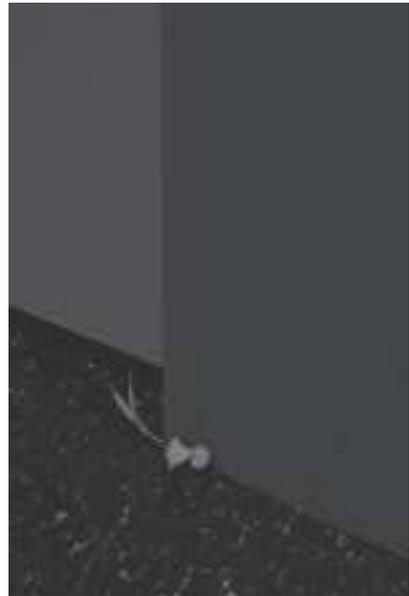


写真8 須田悦弘《麦》《蕎麦》 山梨県立美術館の所蔵品であるミレーの《種をまく人》とのコラボレーション。まかれている種をかつては蕎麦、現在は麦と紹介している館の歴史に触発されて。[写真提供 須田悦弘]

のが空気中にも自分の体内にも無数に存在している事実を顕在化させ、人間も自然の一部であると改めて認識させることになりました。

さらに私たちは、当たり前と思っていた日常が極めて尊いことを実感し、身のまわりを見つめ直す機会を得、日常を送ることに“contentment”を覚えることの大切さを再認識しました。「人新世」と

呼ばれる現代において、人間中心の思考には疑問が呈されています。私たちが人間を生物として相対化し、身のまわりの非人間存在から何か一つでも時間をかけて向き合うものを見つけることができれば。栗田が拾う土と、須田が彫る草花は、私たちのこれからの生に豊かな示唆を与えてくれているのではないかと二人の展覧会をとおり感じています。⇐



おおた ともこ

2004年 北海道大学文学部卒業卒寮

2006年 東京大学大学院人文社会系研究科修士課程修了

山梨県立美術館学芸員

近況 同じく北海道大学出身の夫と就職後に知り合い結婚、2児の母親。

# 十勝宮古航路の夢

千葉 博正

## 眠れぬ夜に

近頃は眠れぬ夜に時々ラジオを聴くことが多い。春先のある夜何時もの様に朗読を楽しんでいると、物語の情景が故郷宮古の様子にそっくりなことに気付いた。三陸の寒村に医者を迎えようとする村長とそれに答えた医師一家の物語、吉村昭の短編集『遠い幻影』に収められた「梅の蕾」である。この物語は実話であり舞台は三陸の田野畑村、今でも名村長としての評価の高い早野仙平氏が村長を務めていた頃の出来事がベースとなっている。千葉県癌センターの中心的な役目を辞してやっと赴任してくれた村医の妻が数年後病に倒れて千葉の病院に入院し、程なく帰らぬ人となった。夫人の葬儀には村長をはじめ村民の多くが遠路バスで参列し故人を偲んだ。短い時期ではあったが夫人の気さくな人柄を愛した村民との暖かい交流があったからである。このような村民の思いは医師にも伝わり、医師はその後長きにわたって村に残り地域医療に貢献することになる。(小説のモデルとなった医師将基面誠氏は30年にわたって田野畑村の村医を務め平成8年度「保健文化賞」を受賞している。)

朗読を聴き終えて暫くの間寝ることを忘れ、故郷の行く末に思いを馳せることとなった。

## 故郷の宮古

私の故郷は宮古市である。高校時代の友人達とは今でも交友が続いており、帰郷の折には時を忘れ地域振興を語ることが少なくない。故郷は約10年に及ぶ震災復興の事業がほぼ完了し、社会基盤の整備は大きく進んだといえる。

しかしながら生産活動は力強さが感じられない。このような状況下において地元の人々を更に気落ちさせることになったのがフェリー航路(宮蘭航路)の休止である。

宮蘭航路は当初室蘭市の働きかけに呼応して川崎汽船の子会社であるシルバーフェリーが航路の開設を行ったものである。当時の状況はトラック・ドライバーの長時間勤務が社会問題化し遠距離路線の労働環境の改善が急務とされた。特にフェリー航路を利用する場合には乗船時間と合わせて10時間の休憩時間が必要とされ、本州北海道間のトラック便が集中する苫小牧・八戸航路は乗船時間が7時

間半であるところから この航路を運航するシルバーフェリーは対応を余儀なくされることとなった。このような状況下において室蘭市がフェリー会社に呼びかけ実現したのが宮古・室蘭航路(航海時間10時間)である。開設時には室蘭市の埠頭にはかつて利用されていた係留施設や乗降施設が有り改めて整備の必要は無かったものの、宮古港にはこのような施設は無く宮古港の施設整備を待つて開業の運びとなった(2018年春)。

## 航路の休止

当初地元宮古では岩手県初のフェリー航路の開設ということで市民の関心も高く多数の市民が室蘭を訪問した。室蘭側でも久方振りにフェリー航路が復活し、大手スーパーが三陸物産展を開催するなど双方の地域連携に期待が集まった。その後フェリー客は順調に推移したものの貨物利用(物流)は低調なままであった。このためフェリー会社は貨物利用の増加を図る為に八戸港への寄港を試みたものの十分な効果は得られず今年度末をもって全航路を休止することとなった。

この間宮古市においては利用促進のためにフェリーを利用した運送事業者を対象に数回に亘ってアンケート調査を実施している。その結果によると、荷主の多くは後志圏以南に分布しており着地も関東方面が多いところから宮古室蘭航路は時間短縮効果が得られにくいこと、また陸

上部分も三陸沿岸道が一部未整備であり、トラック・ドライバーから敬遠されたことなどが明らかとなった。このため開業から僅か1年余りで宮古・八戸間の航路が休止となり来年3月末で八戸・室蘭間の航路が休止することになった。宮蘭航路開設の準備段階から地元自治体の要請を受け、航路開設に関係してきた者としては誠に念であり、関係者と共に宮古港の利活用を再検討することとなった。

## 十勝圏と本州の最短ルート

一般に交通需要(旅客・貨物)は派生需要と言われている。本来的需要(本源的需要)を実現するために付随的に発生するものであり、交通移動の目的や商取引など本来的需要が無いところに派生需要は生じない。特に貨物輸送の場合、生産地から消費地まで最短ルート(最小コスト)で輸送出来るルートに多くの荷物が集まるのは当然である。北海道で最大の生産地である十勝圏と本州(首都圏)を結ぶ最短ルートは何処か?日本地図で襟裳岬から本州に向かって直線を引いた場合、最短ルートは本州最東端の地宮古に達する。

最近このような視点から新たな北海道と本州間の輸送ルートを開拓しようとする試みが行われている。この計画について、ある新聞社からインタビューを受けてその背景を説明した。以下にその記事を要約する。

『北海道建設新聞』2020年4月21日(火)  
版に掲載されたインタビュー記事要旨(文  
責：千葉博正)

## 十勝港を使い北海道物流効率化

### <北海道物流の課題>

本道経済を支える基幹産業は農水産業。  
農産物は根菜類を中心に秋頃輸送需要が  
高まり、季節変動が大きい。一方水産物は  
鮮度保持のため常時運び出す必要がある。

十勝圏やオホーツク圏で生産した農水  
産物のうち、一部は釧路から海運(大洗・  
常陸那珂ルート)で輸送されるが大部分は  
札幌圏に集められ、鉄道か海運(苫小牧・  
八戸ルート)で輸送されている。

鉄道の場合、青函トンネル内は旅客と  
物流の共用であり、北海道新幹線の延伸  
に伴って速度の遅い貨物列車の運行は制  
約を受け、運行本数は従来の半分以下に  
なることが予想されている(ダイヤ編成上  
の制約)。

道央圏の主要港湾である苫小牧港は貨  
物が集中しており余裕が無い。

このため北海道本州間に新たな輸送ル  
ートを構築することが喫緊の課題となっ  
ている。

### <打開策案>

貨物を一度札幌圏に集荷するより、生  
産地(十勝圏等)から直接関東方面に輸送す  
る新たなルートを整備する必要がある。  
注目に値するのは十勝港である。十勝圏・  
オホーツク圏と本州間の輸送ルートを考  
えた場合、



『北海道建設新聞』に掲載された記事の一部

十勝港から本州最東端の地である岩手  
県宮古港に至るルートは航路上最短ルー  
トとなっている(地理上の優位性)。

関東方面への輸送の場合、帯広から鉄  
道を利用し札幌経由で運ぶ場合と、十勝  
港から宮古港を経て陸路で関東に運ぶ場  
合、所要時間はほぼ同じ。しかし宮古港か  
らの輸送は三陸沿岸道路を利用すれば、  
道路利用料が無料のためコスト削減出来  
る(輸送コスト上の優位性)。

帯広周辺若しくは十勝港周辺に冷凍冷  
蔵庫などのストックポイントを整備する  
ことによって、市場ニーズに対応出来る  
と共に、季節変動の平準化が可能となる。

筆者は昨年10月宮古市長を伴って広  
尾町を訪問したところ、広尾町長はじめ  
農協組合長など地元経済界の方々も既に  
この記事を読んでおり、是非新航路の開

設を推進したいとのことであった。一方、宮古市においては本年 11 月市役所の幹部職員を対象に十勝航路開設に向けたセミナーが開催され筆者も講師として参加

したところである。両地域とも新航路の開設に多大の期待を寄せており今後の展開が楽しみである。◀

#### ちば ひろまさ

1948 年 岩手県宮古市出身、1973 年 北海道大学工学部卒業卒業

1979 年 北海道大学助手、1989 年 北海道自動車短期大学教授

1996 年 札幌大学教授、2018 年 同名誉教授

苫小牧港地方港湾審議会、室蘭港長期構想検討委員他

一般財団法人巖鷲寮顧問、専門は「都市交通システム」(工学博士)



**近況** 最近、親の介護の為マンションから以前住んでいた一戸建てに引っ越しをしました。のんびりとガーデニングを楽しむ心算が、趣味の大工仕事に熱が入りベランダを造作し序でに車庫まで手を伸ばし、やっと一息ついているところです(車庫の積雪を気にしながら……〈笑〉)

## 13年間の海外駐在を通して

佐々木 泰弘

### はじめに

還暦をすぎ寮生活は心の故郷のように感じておりました。寄稿の機会に感謝しております。寮母さんには大変お世話になり、寮友の人達と数年前より盛岡で旧交を深めております。寮時代に戻ったようで毎年の楽しみです。東京の一心会にも参加させて頂いております。還暦はまだまだ、若手で嬉しい会です。心は、老化もしますが一瞬で40年前に戻ったりします。

現寮生の方々は、2000年前後の生まれだと思いますので、40歳程度の年齢差がありましょう。また、コロナ禍で渡航制限の中、海外の話題になりますが、ご容赦ください。

85年商社に就職、19年退職、在職中13年間海外駐在しました。その時、何を感じたか、エピソードを中心に寄稿します。

### この30年—世界は身近に感じるようになりました

大災害の時は殆ど海外におりました。95年1月17日(阪神淡路大震災)、3月20日(地下鉄サリン)、01年9月11日(米国多発テロ)、11年3月11日(東日

本大震災)、10月5日(スティーブジョブス死去)。国際映像は一瞬に世界中を駆け巡り、衝撃を受けました。ニュース映像では中東アルジャジーラ、中国 CCTV、欧米各国、ロシア国営、NHK 国際放送など。90年 WWW (ネット) 登場、その後07年スマホ登場。スマホは生活様式に多大な影響を及ぼしました。先進国に限らず、スマホは発展途上国にも一気に普及しているようです。香港や中東には、多数のアジアの人達が働いており、母国向けスマホ送金は大活躍です。スマホによる個人の発信情報は一瞬に世界を駆け巡る時代になりました。朝起きたら、グリンデルワルドとニセコの画像を見て、いいね！をクリックするような生活になりました。この40年で世界は身近に感じるようになりました。世界中の人達は「知る」こと、



「学ぶ」ことは容易になったと思います。

## 人知を超えた存在

一方、世界的な問題は、自然災害や疫病、人災があると思いますが(戦争、貧富、差別、環境破壊など人災も多いです)、太古よりなかなか解決していない、と感じております。科学技術のお陰で、社会は進化したと思いますが、なぜ解決しないのでしょうか。また、海外駐在してみて、「教育」はすごく大切だな、50年、100年スパンで影響を与えるだろう、と思いました。弱者に対する「寛容」や「ユーモア(笑い)」も大切です。

また人知を超えた何か、を意識しました。後述しますが、ミャンマーで超能力者に面談、目の当たりにしました。

中東に住んでみて、3 大宗教が生まれた理由がわかる気がしました。

香港は、風水を信じている人が普通で風水学があり、パワースポットも多かったです。人類の歴史は、災いと心の癒しの歴史かも、と思いました。

## 海外勤務。世界中都市化

今まで(62歳)、18年間岩手、11年間札幌、13年間海外(ミャンマー〈98年~02年〉、イラン〈04年~07年〉、香港〈12年~18年〉)、20年間東京です。商社で海外電力事業やガス開発事業をしており、40カ国以上の国を訪問しました。

欧米先進国から多数の途上国まで。朝の市場や教会、お寺など、人々の様子は類似性がありました。

世界各国で急速に都市化が進んでおります。都市化とは何なんでしょうか。

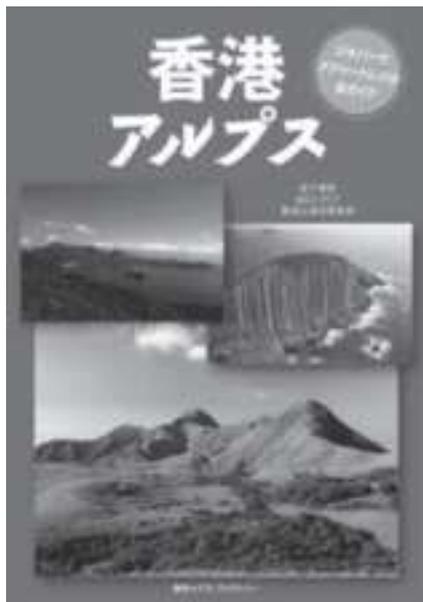
94年初めてミャンマーを訪問。欧米企業との合弁でのガス事業でした。大都市バンコクから30分で別世界、田舎でした。皆が貧しく、貧富の差はありませんでした。貧しくともパゴダにお参りして幸せそうでした。こういう国を都市化して良いのだろうかと思いました。約1000年前のバガン王朝は富を配分、数多くの仏塔を建設しました(下の写真)。1885年英国はビルマ王朝を滅ぼし、植民地支配しました。日本も第二次大戦の統治時、アウンサン将軍を台湾で教育(スーチーさんの父)、深い関わりがあります。タイ王朝は残りましたが、ビルマ王朝は滅亡です。

イランは(ペルシャ帝国)、イスラム教より古く(7世紀)、もともとゾロアスター教の国です。イランはアリア人という意味です。英語を話せるアルメニア系



の移民も多く、アルメニア教会(キリスト)があります。現地スタッフも英語が話せるアルメニア系は多かったです。1978年以前は米英の中東一のお友達です。テヘランは大都市です。イランの地方都市、シラーズは、赤ワインのシラーズです。テヘランは雪が降り、スキー場もあります(6頁の写真参照)。

香港も大都市です。1842年~1997年迄英国植民地でした。途中41年~45年は日本統治です。言葉は広東語で中国語(北京語)とは全く異なります。英語教育を選べます。道教寺院に加え、キリスト教会やモスクもあります。香港と言えば摩天楼のイメージですが、実は山が多く、トレイルの数や蝶の種類は、アジア有数です。ミャンマー、イラン、香港とも「おしん」は大人気でした。空気の匂いや水は、



北国と南国、食生活、都市と田舎でかなり異なります。

## 帰国後の感想

明治時代、夏目漱石は英国から帰国後、日露戦争に勝ち、欧米列強を手本にした日本の将来に不安を抱いたようです。大正、昭和、平成、令和と、帰国した人達は如何なる感想を抱いたのでしょうか？当方が感じましたのは、繰り返しになりますが、「世界中で都市化が進んでいることの不安」や「教育」、「リベラルアーツ(教養)」の大切さです。それと「寛容さ」や「ユーモア(笑い)」。

駐在当時、ミャンマーの主要大学は閉鎖しておりました。イランも厳しい制約がありました。国民に、自由に学ばせない社会システムです。香港は、その点自由でした。英国の大学は約1000年前に誕生、歴史があります。香港にはアジア有数の大学があり、更に2000年以降、大学数は4つも増えました。教育は各国かなり異なります。英国の教育システムは人気ありました。米ハーバード大学の40年以上にわたる卒業生の追跡調査によりますと、年老いて幸福感を感じるのは、「友人(家族)」や「他人や社会への貢献を感じた時」のようです。お金や社会的地位のランクは低いようです。米国の大学人気や年老いた幸福感は分かる気がします。

## 商社入社経緯

「13年間の海外駐在を通して」ということで、1) 商社入社の際、2) 駐在順に、ミャンマー、イラン、香港の思い出、3) 還暦を過ぎて、を述べたいと思います。

岩手で育ち(衣川関の衣川)、学部は北大理学部化学科です(78年~85年。ちなみに化学科53期世話人です)。巖鷲寮は、大祖父(故高橋万右衛門(農学部)が巖鷲寮理事でしたので入寮しました。3人部屋で昆理事長は一学年先輩です。三浦四郎理事長のトイレのマナー指導は憶えています。3人部屋でいろいろご迷惑かけたと思います。寮時代(3人部屋)、音楽の影響を受けました。80年12月8日ジョンレノン追悼、ジャズ好き、クラシック好き、オペラ好き、中島みゆきなど。音楽は世界各国で愛されており、卒業後も長い付き合いです。また、体育会の山スキー部にも入りました(教養時代)。1年の半分は山の中でした。冬山は自衛隊の訓練に近かったと思います。ミャンマー、イラン、香港とも山は多く、音楽同様、こちらも長い付き合いです。

商社は、大学4年の時、山スキー部の友人とヨーロッパにスキー旅行したのがきっかけです。登山鉄道等インフラのスケールの大きさや田舎の立派さに衝撃を受けました。台湾、アジア、中東(ドバイ)経由オランダへ。深夜のドバイ空港は、宇宙基地のようでした。スキーのベースはシャモニ(仏)。田舎の街並みは奇麗で(色

や花、歴史的な建物)、さながら新田次郎の世界でした。帰路、広大なルーブル美術館で江戸時代やギリシャ、ローマ時代の芸術品の数々を観ました。知らないことばかりでした。海外で仕事をしたいな、還暦の時に再びここでスキーをしたいな、と思いました。

## 13年間の海外生活

三井物産ではプラント部に配属、プラント部は海外電力事業、ガス開発を行うプロジェクト本部になりました。総合商社はコングロマリットで(多くの業界に関与する多国籍企業体。企業間取引)、消費者向けブランドは少ないことから、分かり難いと思います。資源開発、国際貿易に加え、1990年代以降は会社経営(事業運営)に軸足を移しつつあります。海外電力事業は、英国の民営化(PFI)もあり、取組は早かったです。国際入札で事業権を獲得(またはM&A)、資金調達、建設、事業経営をします。現地企業や海外企業との合弁が多く、ミャンマーは、米仏企業との合弁(米 Unocal. 今 Texaco、仏 (Total)、イランは、日本連合案件でした(日本政府支援)。香港は、在香港中国企業との合弁。すぐ隣の深セン市は約1200万人の新しい大都市で、活気がありました。ベンチャー企業投資も多かったです。最後に駐在した3ヶ国のちょっとしたエピソードをご紹介します。

ミャンマー駐在：超能力者との面談 ミャンマー政府の紹介で、超能力者に面談しました。俗称はET。面白そうなので会ってみるか、事業の将来でも聞いてみるか、という軽い乗りでした。タイやインドネシア政府も選挙見通しで面談、なかなか会えないとか、随分大げさだなと思ってました。申し入れから1か月ほどで面談。朝8時頃、ETの家に行くと信者が7〜8名ほどおり、ETは、小柄で話せませんでした。歩くのも手助けが必要。30分程、大きな座布団の上で瞑想。当方はその後ろで、何もせず、座っておりました。その後、紙に数字を書きだしました。一つは、当方の腕時計の裏の8桁の番号、一つは当方の財布の20米ドル札の番号。なんとどちらもドンピシャリ。トリックはなく、



心臓が止まるほど驚きました。それから、当方の家族や会社のこと、事業のことなど、説明していないのに、さらさらと書きました。どれも当たっておりました（後年）。帰宅後、まるでエネルギーを吸い取られたように疲れ、一日眠りました。ETは数年前に亡くなられたようですが、世の中には超能力者がいるのだと目の当たりにしました。ETの様な弱者の才能を生かすのも社会システムだと思いました。

イラン駐在：ノアの箱舟 イランはアリア人由来です。紀元前のペルシャ帝国はバビロンの捕囚からイスラエル人を開放、また、イスラム教より歴史は古く、もともとゾロアスター教の国です。テヘランには雪がふり、スキー場があります。北部（カスピ海寄り）にはアルボルツ山脈、北西部（トルコ寄り）にはザグロス山脈があります。イランの会議室には、名産のサクランボやキュウリがいつも大皿に盛られており、パクパク食べながら交渉です。サフラン、ピスタチオ、キャビアも名産です。カスピ海のキャビアは安く手に入りました。イラン（テヘラン）駐在迄、全く知らなかったのですが、ノアの箱舟は、トルコ東端のアララト山（5137M）由来。イラン国境から16KM、アルメニア首都の近くです。アルメニアは世界最古といわれるキリスト教国家（4世紀）、オスマントルコの迫害後、イランで暮らす人は多いです。数千年にわたる、ノアの箱舟



(アララト山)、アルメニア(4世紀)、イラン山脈(ゾロアスター教由来。紀元前5世紀)、イランのイスラム行事(アーシューラー、7世紀)。イランでは、これら1000年スパンの話が身近です。中東で宗教が生まれたのは、厳しい気候に加え、そもそも宗教は身近にあり、新たな宗教を生む社会システムや素地があったのでは、と思いました。

**香港：風水の都市** 香港の人達は、風水をとても大切にします。クリスマスパーティのラッキードロウで当たった場合は、翌日、関係者にお菓子などを配ります。幸運は他人にも与えないと逃げてしまう、と信じているようです。香港の建物の間あたりには、風が抜ける空間がありま

す。風水によるものです。HSBCは英国系銀行で、香港のシンボルです。HSBCの社屋の屋上には、中国銀行を向いた大きな受け皿が設置されています。これは、中国銀行の建物は、HSBCに矢を引いているように見え、風水的に、HSBCの業績悪化につながるということで、矢を跳ね返す皿を設置したものです。香港の人達は、人知を超えた「風水」を真剣に考えていました。風水学もあります。因みに、結婚式開始前、多くの家族マージャン卓が並びます。24時間雀荘も数多くあり、賭け事が好きな人達でもあります。

**還暦を過ぎて** 岩手や札幌(北海道)に何か恩返ししたいと思ってます。何も出来てませんので。知らないことが多いことを知り、利他の心(稲盛和夫)を大切にしま

て今後も自分に出来ることを模索して参りたいと思っております。🙏



ささき やすひろ

1985年北海道大学大学院理学研究科化学専攻修士課程修了、卒業  
同年三井物産（株）入社。三井物産電力事業（株）社長等  
2019年退職。同年（株）ウフル入社（情報システムベンチャー）



## 外務大臣に表彰されたキーン昭子さん

野崎 希代美

去る 2021 年 7 月 6 日夕方 6 時より 8 時半まで、在日本国大使公邸にて、富田浩司大使主催による外務大臣表彰式典が開催されました。

受賞者には北大の父と言われる佐藤昌介氏のひい孫にあたる全米州議会協会・名誉顧問の昭子キーン氏も含まれました。

パンデミック状況下により臨席者数は制限されましたが、各界著名人のブレア氏（北大卒業）、ノーマン峯田良雄氏（第 59 代サンノゼ市長、第 33 代商務長官、第 14 代運輸長官）、ドクター中澤、ジョン・マロットワシントン DC 日米協会会長、日本商工会議所会頭を始めワシントン DC 在住の VIP と各受賞者のご家族、およびゲスト 100 名ほどの方々ご臨席されました。

式典は、富田大使の開会のご挨拶から始まり、受賞スピーチは、全米州議会協会・名誉顧問の昭子キーン氏（功績概要：日本とアメリカ合衆国との相互理解の促進）から始まり、トーマス・ジェフ



米国在日本大使館公邸で開かれた外務大臣表彰式典で挨拶するキーン昭子氏



左から富田浩司駐米日本大使、お孫さんのマリコさん、キーン昭子さん、お嬢様のステファニーさん

アーソン高校の日本語講師大谷浩二氏  
(功績概要：アメリカ合衆国における日本語教育の推進)、団体受賞のワシントン日本語継承センター(功績概要：アメリカ合衆国における日本語教育の推進)と続きました。

そして、昭子キーン氏の長年の友人でもあるジョン・マロット氏が乾杯のご挨拶をされました。氏はとりわけ、「昭子キーン氏の続けられてきた石灯籠点火式は、日米両国にとって、どれだけ大切なものであるか」ということを強調されました。

富田大使が茂木外務大臣に代わり表彰状を授与され、昭子キーン氏が3組の受

賞者を代表して受け取られました。記念品は金沢の伝統金箔工芸品の赤富士の置き時計でした。

その後、着席によるお食事会へと進み、日本国大使館付きの料理長による素晴らしいコース料理が振る舞われました。会場は和やかな雰囲気でご歓談となる中、美しい日本の辻ヶ花のお着物姿の昭子キーン氏が、各テーブルにご挨拶にまわられました。シカゴから駆けつけられたキーン氏のお嬢様のステファニーさんとお孫さんのMarikoさん(12歳)もお着物姿でご参加され、会場により一層の花を添えていらっしゃいました。富田大使より、昭子キーン氏に対して、パンデ

ミック収束の後、改めて佐藤昌介氏とゆかりのある在アメリカ合衆国日本国旧公邸にて、長年にわたる日米友好親善への

ご貢献によるお祝いを改めて開催してくださるとのお言葉をいただきました。

のざき きよみ

アメリカ合衆国オレゴン州ポートランド市在住



## 「燃えない進化」の時代

塚本 博隆

巖鷲寮にお世話になった北大生時代は地質を学んでいた。生まれた青森県の津軽ではストーブ列車が走っており、石炭が燃料だった。近くに寄ると真冬でも汗をかく暑さ。子供心に石炭が燃えるエネルギーのすごさに圧倒された。世の中は、石油の枯渇が叫ばれていた。エネルギー問題の行く末と、当時話題になりつつあった地球温暖化問題に関心があったことが進路を決めた一因だった。

人間は燃えることを活用することで進化してきた。原始時代、火を獲得することで食べ物の幅は広がった。熱することで柔らかく、あるいはおいしくなった。原料を火にかけて土器や鉄器を作製することで、生活の質を上げることもなった。炎は敵となる動物や害虫を追い払う術にもなった。

産業革命以降、燃焼をさらに活用することで進化の加速度が上がった。石炭による蒸気機関、石油による内燃機関の発明などで、人類の移動や工業製品の作製が容易になった。火力によって発電するようになり、電話やテレビ、コンピューターを発達させ、コミュニケーションや思考の役割までも担うことにもなった。人間の進化は「燃える」ことを活用してきた

歴史ともいえる。

「燃える」というのは物質的なことだけでなく、精神的にも肯定的な意味合いで使われる。昭和を代表するスター、長嶋茂雄の代名詞は「燃える男」。若い人には政治家のほうが通じるかもしれないプロレスラーのアントニオ猪木は「燃える闘魂」と呼ばれていた。

しかし近年の温暖化の進行で、「燃える」ことがすっかり悪役となってしまった。温暖化ガスの排出量を抑えるために産業活動が制限され、不便な時代に後退するようにも思うかもしれない。しかし必要以上に便利な世の中になったことで、人間の能力自体が退化しているようにも思えなくもない。逆に燃やさないことで新たな発明が生まれ、進化につながるかもしれない。「草食系」という言葉が生まれるように、精神的な意味でも評価も変わってきている。熱すぎる人だと「うっとうしい」と思われかねない時代だ。オール電化の家が増えて、そもそも実際の炎を見たことがない子供も増えているそうだ。

炎は戦争の道具として、多くの人や都市が犠牲になった。今後は火器が作れなくなり、戦争は仮想世界の中だけになる、というのはさすがに期待しすぎか。アフ

ターコロナの時代。リモートワークが注目を集め、直接的なエネルギーを費やさなくても一定の活動はできるようになっ

た。「燃えないで進化」する時代のスタイルを熱い視線で探りたい。👈



つかもと ひろたか

1972年青森県五所川原市出身

1995年北大理学部地質学鉱物学科卒業、卒寮

同年北海道新聞入社、深川支局、地方本部、帯広報道部、生活部などを経て

現在は編集本部勤務



## 「カッコいい」男

田村 浩志

作家・角田房子に至福に満ちた、心温まる一編のエッセイがある（恋ひとすじの女、「人の匂ひ」1985、文芸春秋社）。角田は、安政3年宮崎県生まれで陸軍大臣を歴任した、元元帥・上原勇作の妻について書き、一途に夫を愛した女のしあわせに対して賛辞を贈った。しかし、私が格好いいと思ったのは、夫の勇作の方である。

上原の周辺では彼の厳しさ鋭さから「雷おやじ」と呼ばれていたという。しかし、妻が肺を冒され、余命は長くあるまいと医師から告げられると、勇作は強い衝撃を受けた。それまで軍務に集中し、70歳の老将軍は妻に苦労を掛け続けてきたことを反省し、軍務を退いて妻を伴い、房総半島一の宮に移った。長年の妻への冷酷を一挙に償おうとする姿に周囲の人々は強く心を打たれたと言う。ある時、妻は見舞いに来た上原の副官に「私はもう長くは生きられないでしょう、けれど私は今の自分を本当に幸せだと思っています。私はもの心ついて以来、上原をこんなに立派な男はないと心の底から信じ、愛して来ました。私が病気になってからのあの人の親切、私にそそ

がれる深い愛、少女の時から生涯をかけて愛した人から、これほど愛されてこの世を去る私は本当に嬉しさでいっぱいです」と話したという。これほどのことを言わせた上原勇作の「カッコよさ」に私は感動した。上原の写真を見ていなかったのも、姿・格好ではなく、潔さ・心意気に感動したのである。「カッコいい」、私もそんな「潔さ」を持ちたいものだと思った。でも、と思い、図書館に行って百科事典を見ると上原の写真があった。写真で人を判断することは良くないが、敢えて言えば元帥だから沢山の勲章を軍服にぶら下げていたのは当然だが、容貌は、いわゆる秀才型でも眼光の鋭い人でもなく、ごく普通の人のようで、眼が優しく、田舎でよく見かける親切なお爺さんのような顔をした人であった。それで、私は一層、本当に「カッコいい」と思ったのだ。

私は嘗て、「妻への恋文」と言うタイトルのエッセイを書いたことがある（「ぺんぺん草」63号、2017）が、上原勇作のような「人」にはなり切れなかった悔しさがある。その様な恋文などを書くのが初めてのことであり、何よりも「自己」

が表に出過ぎた感を免れない。もっと己を削って、淡々と描かなければならなかったのだ。天台宗の開祖である最澄が言う「忘己利他（もうこりた）」に徹しなければ、他人に訴えるには力不足だと痛感させられた思いがある。上原の「カッコよさ」は、そんな次元を越えたところにあるのであろう。そんなことを考えていたら、私にも上原の人柄を拝借するような機会が近づいてきた気配を察することが発生した。

ここから話は急転換する。私は数年前から心不全と腎不全を患って治療をしてきたが、半年ほど前から腎不全が悪化し、岩手で医師から人工透析の可能性を宣告され、準備する様にと言われた。私の今住んでいるところは奥羽山脈の裾に当たる山麓で、ここから週3回、一回3~4時間を掛けて通院することは不可能なので、当初は隣の都市にある大きな病院の近くに移ることを考えていた。しかし、歳をとってからの引っ越しは思う以上に大変なことで、どうしようかと思案していた。いま、大阪の高槻市に、ケアマネジャーをしている娘とその家族がいて、いずれは娘の近くにアパートの一室を借りて世話になろうかと漠然と考えてはいたが、この度の突然の透析宣告を受けて事態は急変した。娘は仕事の都合もあり岩手に頻繁に通うことは難しいので、思い切って大阪に出てこない

か、と誘ってくれた。この際、娘の誘いを受けて大阪に移住することも選択肢の一つとして考えるようになった。こちらの友人たちに話すと、異口同音に歳を取ってからの新しい土地への移住は大変だぞ、大阪は尋常でなく暑いところだぞ、と反対された。私も言葉も文化も今までと大きく異なる「壁」の心配を根拠に、大阪行きに積極的になれずにいた。しかし、2ヶ月ほど前から大阪に移住することへの不安が薄くなってきた。その辺の「心変わり」の理由を記して置きたい。

大阪に移るかも知れないと言う噂を聞きつけて、妻が親しくしている近所の女性が来て一緒に懇談する機会があった。私も傍らにいて話を聞いていた。その時、妻は娘や孫たちのことを思い描いて、穏やかな笑みを浮かべながら楽しそうに話をしていた。そのような彼女の表情を見たのは久しぶりだった。若い頃、彼女は何時もコロコロと笑いながら話をする人だった。思えば、私が心筋梗塞を患って入院して以来、妻には辛苦の日々を課すことになってしまった。運悪く、管理職やある学会の会長など気を抜けない仕事が重なり、5年間に6度も入退院を繰り返し、その都度カテーテル検査、バルーンでの大動脈拡張治療をした。最後の検査の際に担当医から生き方を変えたらどうかと諭され、その忠告を受

けて定年まで7年を残して早期退職をした。そして、あまりストレスを感じないようにと少年期を過ごした岩手の里山に居を移した。しかし、時既に遅く、潜伏30年と言われる胃がんを発症して全摘手術を受ける破目となった。胃を失ってから、それまでフィールド調査を兼ねて全国の山々に登った体力はすっかり減衰し、虚弱体質に転落してしまった。透析もその流れの結果だったのと思う。現状はまだ透析の実施には至っていないけれど、透析治療に入って引っ越しは難儀なので、現在、吸着炭細粒による老廃物排出の試験をしている間にも思ひ、転居の手配を進めているところだ。せつかくここまで頑張ってきたのだから先を見てゆつくりと過ごしたい、歳は取ったが、これからの残りの人生をエンジョイしなければ損だと今は考えている。

前に立ち返る。知人と話していて妻が見せた穏やかな笑みを見て、これこそが今、私が探していたものだと思感じた。丁度、胸の奥に折り込んでいたものが急に弾けて出てきたような気持ちになった。子供の玩具に普段は巻き込んでいたものが、吹き口から息を入れると、ヘビのように立ち上がるものがあつた。丁度そんな気持ちが沸き上がったのだ。

全摘手術の時には、妻は落ち込んでいた私に、「何時も側にいるから心配しな

いで」と励ましてくれ、随分と気が楽になったものだった。古来、老いては子に従え、と言われてきたが、30年ほど前から、老いたら妻に従え、それが家庭円満の秘訣だと言うことをよく耳にするようになり、私も口にしたことがある。今になってみると、長年苦勞を掛けた妻だから、「最期は妻の為に」と言い換えるのには悔いがなく、適切だと考えている。私の生命誕生には、自身関与することはできなかつたが、子供たちに、それぞれ親から受け継いだ遺伝子を伝えることが出来た。そして、孫たちに私たちの遺伝子が確実に送られた。これ以上の生物学的な責務はない。あとは、いつか訪れる自分の命の終焉を美しく、納得する形で迎える努力をすることだ。豪華な葬儀が良い訳ではない。自分に合った良い方法がある筈だ。

娘のいる高槻には透析患者の送り迎えをしてくれる病院があり、高齢者は公共交通機関が無料になる制度があるそうだ。交通網が発達している大阪では路線もいろいろあり、慣れればどこに行くにも利便性が良いだろう。私の身は多くの病で痛めつけられて来たので、残り僅かであることを素直に受け入れるものの、7歳も離れた妻には娘家族の近くに住み、娘や孫たちとの交流を濃くしてもらいたいと願っている。妻は私と同じ北大理学部生物学科出身で、ポーランド文

学の翻訳者として多くの訳書を出しているが、多分、時には孫たちの世話をしたり、人生経験を聞かせたりすることが仕合せなのだろうと思う。その様に考えると、つべこべ仕方のないことに固執していた自分がまるで嘘のように氷解し、フリーズしていた大阪暮らしに対する躊躇が薄れ、人生至るところ青山あり、との気持ちになってきた。今、私には後世のために書き残しておかなければならないことがあり、それに没頭すれば何処に住もうと問題ではなく、時には近くを散策し、稀には隣の奈良、京都、琵琶湖などを訪れることもあろうかと思う。私は梅原猛氏の哲学的歴史観がこよなく好きなので、もう一度読み直しながら日本の歴史の王道を辿ってみたいとの気持ちが大きくなっている。今はそんな心境なのである。

話は再び大きく変わる。関西には北大教養部のクラスメイトだった、姿も心意気も優れた二人のナイスガイがいる。一人は高槻市にいる K 君もう一人は西宮市にいるこれも K 君だ。二人は何時も大阪弁で、しかも声高に臆せず話していた。こちらは訛りが出ないように、つい黙しがちであると言うのにである。なんと煩い連中だろう、と思っていた。私は 1937 年生まれなので多分年長だと思うが、大阪は全くの未知のところなので、新人として、彼らには率直にいろいろご教示頂

きたいと願っている。大阪の K 君には効率よく歴史を辿るコツを、西宮の K 君には、私は硬めのドイツパンが大好きなので、神戸辺りに多いと言う美味しいベーカリーを教えて頂きたいと願っている。

同期クラスの諸兄は覚えているだろうか。教養部 1 年の時、時は春、大学の講義室番号は覚えていないが、広い部屋だった。ある朝、我々が授業の始まりを待っていると、一人の詰襟学生が入って来て教段に立った。ようやく少年を過ぎたばかりの学生に中肉中背の形容詞は不適切かもしれないが、クラスメイトがまだ確かには分別できない中、その学生は猛烈な勢いで「安保反対」のいわゆるオルグを始めた。誰かが函館中部の「カロージだ」と囁いた。その時、二人のナイスガイは「これから授業だ、邪魔するな、帰れ」と声を上げた。それからクラス全体の「帰れ、帰れ」のシュプレヒコールが沸き上がった。「カロージ」は「文類」で、後に全学連の委員長となった唐牛健太郎だが、すごすごと帰って行った。そのとき、私はそのナイスガイの勇氣に敬意を抱いた。その後、「カロージ」が二度程大通り公園の道新ビルの前で演説するのを見た。印象はすっかり変わっていて、その自己陶醉的な姿が、三島由紀夫の危うさに重なった。

今度およそ 60 年振りに二人の K 君と会えることを楽しみにしている。彼らは

少年の時に関西から北海道に向かった。  
私は老体になってから岩手を出て大阪  
に向かう。地理的な方向は逆だが、人生  
をより豊かにするために新天地に向か

う気持には違いがない。

最後に私ども夫婦の写真を添えて転  
居の挨拶としたい。☺



たむら ひろし

1962年 北海道大学理学部生物学科卒業卒業、茨城大学名誉教授



編集者より：田村浩志氏は2022年2月2日にご逝去されました。

心よりご冥福をお祈りします。

## 冬期オリンピック選手監督の帰朝歓迎会が巖鷺寮で —ただし今から90年前の話です—

2022年2月に北京で冬期オリンピックが開催され、日本選手の活躍が国民を沸かせました。その帰朝歓迎会が巖鷺寮で？と驚かれるかも知れませんが、以下は、今から90年前の1932年に岩手県で発行されていた雑誌に掲載された記事です。

### 札幌巖鷺寮日より

五月一二日(木)今季オリンピック日本スケート選手監督としてレークプラシットに派遣された北大助教授にして前佐藤総長令息なる佐藤昌彦氏及び札幌における女流スケーターとして又閨秀画家として有名な同氏令夫人を招待し午後六時から当寮食堂に於いて帰朝歓迎会並びに同氏の講演会を開催し多数県人の出席を得九時盛会裡に散会した。(昭和7年6月発行の『新岩手人』第二巻第六号より転載。旧漢字は新漢字に書き替えている)

佐藤昌彦は、1900年札幌生まれで、東京帝国大学法学部を卒業後、北海道帝国大学農学部助教授、札幌高等裁判所、東京家庭裁判所判事などを歴任し、東北学院大学教授及び宮城学院長を務めた。1948年に玄文社から刊行された『佐藤昌介とその時代』は2011年に増補されて北海道大学出版会から復刊された。この記事の存在は、盛岡にある「深沢紅子野の花美術館」職員の高橋薫さんから教えていただきました。この場を借りてお礼申し上げます。

### 巖鷺寮一心会早わかり

**目的と歴史** 本寮(巖鷺寮及び佐藤・新渡戸記念寮)の寮生・出身者ならびに関係者(役員・職員・その他)からなる親睦団体で、1936年に「一心会」として創設されて以来86年の歴史があります。これまで、改築や記念プレート設置などの節目のときに財政支援を行うとともに、定常的な情報交換の場をつくり、寮の運営を支援してきました。

**名簿の管理と運用について** 2018年度まで全名簿を掲載してきましたが、個人情報保護の点で齟齬が生じる恐れがあることから、「巖鷺寮一心会にお

(2017年6月9日一部変更)

## 第1章 総則

(名称)

第1条 この法人は、一般財団法人巖鷲寮と称する。

(事務所)

第2条 この法人は、主たる事務所を北海道札幌市に置く。

## 第2章 目的及び事業

(目的)

第3条 この法人は、主として岩手及び青森両県全域並びに秋田県の一部旧南部藩領の出身者、又はそのゆかりの子弟にして、札幌市近郊の大学に在学する学生の勉学に資し、秩序ある共同生活を通じて、健康の増進と、品性の陶冶を図ることを目的とする。

(事業)

第4条 この法人は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 学生寮「佐藤・新渡戸記念寮(旧称：巖鷲寮)」の維持経営
  - (2) 寮生の心身鍛錬、教養向上のための行事及び会合
  - (3) その他この法人の目的を達成するために必要な事業
- 2 前項第1号から第3号までの事業は、札幌市において行うものとする。

## 第3章 資産及び会計

(基本財産)

第5条 この法人の目的である事業を行うために不可欠な別表の財産は、この法人の基本財産とする。

- 2 基本財産は、この法人の目的を達成するために善良な管理者の注意をもって管理しなければならず、基本財産の一部を処分しようとするとき及び基本財産から除外しようとするときは、あらかじめ理事会及び評議員会の承認を要する。

(事業年度)

第6条 この法人の事業年度は、毎年4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

(事業計画及び収支予算)

第7条 この法人の事業計画書、収支予算書については、毎事業年度開始の日の前日まで

に、理事長が作成し、理事会の決議を経て、評議員会の承認を受けなければならない。  
これを変更する場合も、同様とする。

- 2 前項の書類については、主たる事務所に、当該事業年度が終了するまでの間備え置きするものとする。

(事業報告及び決算)

第8条 この法人の事業報告及び決算については、毎事業年度終了後、理事長が次の書類を作成し、監事の監査を受けた上で、理事会の承認を経て、定時評議員会に提出し、第1号及び第2号の書類についてはその内容を報告し、第3号から第5号までの書類については承認を受けなければならない。

- (1) 事業報告
  - (2) 事業報告の附属明細書
  - (3) 貸借対照表
  - (4) 損益計算書（正味財産増減計算書）
  - (5) 貸借対照表及び損益計算書（正味財産増減計算書）の附属明細書
- 2 前項の書類のほか、次の書類を主たる事務所に5年間備え置きするとともに、定款を主たる事務所に備え置きするものとする。
    - (1) 監査報告

(剰余金の分配の制限)

第9条 この法人は、剰余金の分配を行うことができない。

## 第4章 評議員

(評議員)

第10条 この法人に評議員6名以上15名以内を置く。

(評議員の選任及び解任)

第11条 評議員の選任及び解任は、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律（以下「法人法」という。）第179条から第195条の規定に従い、評議員会において行う。

(任期)

- 第12条 評議員の任期は、選任後4年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時までとする。
- 2 任期の満了前に退任した評議員の補欠として選任された評議員の任期は、退任した評議員の任期の満了する時までとする。
  - 3 評議員は、第10条に定める定数に足りなくなるときは、任期の満了又は辞任により退任した後も、新たに選任された者が就任するまで、なお評議員としての権利義務を有する。

(評議員に対する報酬等)

第13条 評議員は、無報酬とする。ただし、評議員には、その職務を行うために要する費用の支払をすることができる。

## 第5章 評議員会

(構成)

第14条 評議員会は、すべての評議員をもって構成する。

(権限)

第15条 評議員会は、次の事項について決議する。

- (1) 理事及び監事の選任及び解任
- (2) 貸借対照表及び損益計算書（正味財産増減計算書）並びにこれらの附属明細書の承認
- (3) 定款の変更
- (4) 残余財産の処分
- (5) 基本財産の処分又は除外の承認
- (6) その他評議員会で決議するものとして法令又はこの定款で定められた事項

(開催)

第16条 評議員会は、定時評議員会として毎年度決算終了後、3ヶ月以内に開催するほか、必要がある場合に開催する。

(招集)

第17条 評議員会は、法令に別段の定めがある場合を除き、理事会の決議に基づき理事長が招集する。

- 2 評議員は、理事長に対し、評議員会の目的である事項及び招集の理由を示して、評議員会の招集を請求することができる。

(決議)

第18条 評議員会の決議は、決議について特別の利害関係を有する評議員を除く評議員の過半数が出席し、その過半数をもって行う。

- 2 前項の規定にかかわらず、次の決議は、決議について特別の利害関係を有する評議員を除く評議員の3分の2以上に当たる多数をもって行わなければならない。
  - (1) 監事の解任
  - (2) 定款の変更
  - (3) 基本財産の処分又は除外の承認
  - (4) その他法令で定められた事項
- 3 理事又は監事を選任する議案を決議するに際しては、各候補者ごとに第1項の決議を行わなければならない。理事又は監事の候補者の合計数が第22条に定める定数を上回る場合には、過半数の賛成を得た候補者の中から得票数の多い順に定数の枠に達するまでの者を選任することとする。

(決議の省略)

第19条 理事が、評議員会の目的である事項について提案した場合において、その提案について、議決に加わることのできる評議員の全員が書面又は電磁的記録により同意の意思表示をしたときは、その提案を可決する旨の評議員会の決議があったものとみなす。

(報告の省略)

第20条 理事が評議員の全員に対し、評議員会に報告すべき事項を通知した場合において、その事項を評議員会に報告することを要しないことについて、評議員の全員が書面又は電磁的記録により同意の意思表示をしたときは、その事項の評議員会への報告があったものとみなす。

(議事録)

第21条 評議員会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成する。  
2 出席した評議員のうちから、当該評議員会において選任された議事録署名人2名以上が、前項の議事録に記名押印する。

## 第6章 役員

(役員の設置)

第22条 この法人に、次の役員を置く。

- (1) 理事6名以上9名以内
- (2) 監事2名以上3名以内
- 2 理事のうち1名を理事長、2名以内を常務理事とする。
- 3 前項の理事長をもって法人法上の代表理事とし、常務理事をもって同法第91条第1項第2号の業務執行理事とする。

(役員を選任)

第23条 理事及び監事は、評議員会の決議によって選任する。

- 2 理事長及び常務理事は、理事会の決議によって理事の中から選定する。

(理事の職務及び権限)

第24条 理事は、理事会を構成し、法令及びこの定款で定めるところにより、職務を執行する。

- 2 理事長は、法令及びこの定款で定めるところにより、この法人を代表し、その業務を執行し、常務理事は、理事会において別に定めるところにより、この法人の業務を分担執行する。
- 3 理事長及び常務理事は、毎事業年度に4箇月を超える間隔で2回以上、自己の職務の執行の状況を理事会に報告しなければならない。

(監事の職務及び権限)

第25条 監事は、理事の職務の執行を監査し、法令で定めるところにより、監査報告を作成する。

2 監事は、いつでも、理事及び使用人に対して事業の報告を求め、この法人の業務及び財産の状況の調査をすることができる。

(役員任期)

第26条 理事の任期は、選任後2年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時までとする。

2 監事の任期は、選任後4年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時までとする。

3 補欠として選任された理事又は監事の任期は、前任者の任期の満了する時までとする。

4 理事又は監事は、第22条に定める定数に足りなくなるときは、任期の満了又は辞任により退任した後も、新たに選任された者が就任するまで、なお理事又は監事としての権利義務を有する。

(役員解任)

第27条 理事又は監事が、次のいずれかに該当するときは、評議員会の決議によって解任することができる。

(1) 職務上の義務に違反し、又は職務を怠ったとき。

(2) 心身の故障のため、職務の執行に支障があり、又はこれに堪えないとき。

(報酬等)

第28条 理事及び監事は、無報酬とする。

(顧問)

第29条 この法人に、任意の機関として、若干名の顧問を置くことができる。

2 顧問は、次の職務を行う。

(1) 理事長の相談に応じること

(2) 理事会から諮問された事項について参考意見を述べること

3 顧問の選任及び解任は、理事会において決議する。

4 顧問の報酬は、無償とする。

## 第7章 理事会

(構成)

第30条 理事会は、すべての理事をもって構成する。

(権限)

第31条 理事会は、次の職務を行う。

(1) この法人の業務執行の決定

(2) 理事の職務の執行の監督

### (3) 理事長及び常務理事の選定及び解職

#### (招集)

第32条 理事会は、理事長が招集する。

2 理事長が欠けたとき又は理事長に事故があるときは、各理事が理事会を招集する。

#### (決議)

第33条 理事会の決議は、決議について特別の利害関係を有する理事を除く理事の過半数が出席し、その過半数をもって行う。

#### (決議の省略)

第34条 理事が、理事会の決議の目的である事項について提案した場合において、その提案について、議決に加わることのできる理事の全員が書面又は電磁的記録により同意の意思表示をしたときは、その提案を可決する旨の理事会の決議があったものとみなす。ただし、監事が異議を述べたときは、この限りでない。

#### (報告の省略)

第35条 理事又は監事が理事及び監事の全員に対し、理事会に報告すべき事項を通知した場合においては、その事項を理事会に報告することを要しない。ただし、法人法第197条において準用する同法第91条第2項の規定による報告については、この限りでない。

#### (議事録)

第36条 理事会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成する。

2 当該理事会に出席した理事長及び監事は、前項の議事録に記名押印する。

### 第8章 定款の変更及び解散

#### (定款の変更)

第37条 この定款は、評議員の決議によって変更することができる。

2 前項の規定は、この定款の第3条及び第4条及び第11条についても適用する。

#### (解散)

第38条 この法人は、基本財産の滅失によるこの法人の目的である事業の成功の不能その他法令で定められた事由によって解散する。

#### (残余財産の帰属)

第39条 この法人が清算をする場合において有する残余財産は、評議員会の決議を経て、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第5条第17号に掲げる法人又は国若しくは地方公共団体に贈与するものとする。

### 第9章 公告の方法

(公告の方法)

第40条 この法人の公告は、官報に掲載する方法により行う。

附 則

- 1 この定款は、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律及び公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律第121条第1項において読み替えて準用する同法第106条第1項に定める一般法人の設立の登記の日から施行する。
- 2 一般社団法人及び一般財団法人に関する法律及び公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律第121条第1項において読み替えて準用する同法第106条1項に定める特例民法法人の解散の登記と、一般法人の設立の登記を行ったときは、第6条の規定にかかわらず、解散の登記の日の前日を事業年度の末日とし、設立の登記の日を事業年度の開始日とする。

別表 基本財産（第5条関係）

財産種別	場所・物量等
土地	462.80平方メートル 札幌市中央区北7条西18丁目4-23
	69.41平方メートル 札幌市中央区北7条西18丁目28-191
建物	579.01平方メートル 札幌市中央区北7条西18丁目4-23 地下1階付2階建

以上 当法人の定款である 理事長 昆泰寛

## 2021年度巖鷺寮役員名簿

役職	氏名	勤務先
顧問	高木 信夫	北大名誉教授
顧問	小笠原 正明	北大名誉教授
顧問	佐藤 馨一	北大名誉教授
顧問	渡辺 崇彦	日本データサービス・FC 日本データサービスホールディングス社長
顧問	千葉 博正	札幌大学名誉教授
理事長	昆 泰寛	北大大学院獣医学研究科教授
常務理事	中島 和彦	北海道庁職員
理事	横澤 宏一	北大大学院保健科学研究院教授
理事	長山 由起夫	北海道庁職員
理事	佐藤 剛	小樽商科大学助教
理事	塚本 博隆	北海道新聞社社員
監事	本多 丘人	元北大大学院歯学研究科准教授
監事	千葉 和幸	NPO法人北海道宇宙科学技術創成センター
監事	中尾 明子	中尾天法律事務所
評議員	楯引 正	八戸高校同窓会札幌支部顧問
評議員	齋藤 彰	巖鷺協会（札幌岩手県人会）副幹事長 ソニー生命保険（株）社員
評議員	小澤 和男	札幌中央福音キリスト教会牧師
評議員	岡崎 克則	北海道医療大学教授
評議員	柴田 剛	日本データサービス（株）
評議員	窪田 春海	（株）ドーコン社員

## 2021 年度寮日誌

### 2021 年

4 月 7 名の新入寮生を迎える

4 月 10 日 新入寮生歓迎会 参加者 29 人 (招待 13 人、寮生 16 人)

4 月 煙感知器交換 52,800 円

4 月 15 号室網戸交換 66,000 円

4 月 13 号室洗面化粧台交換 165,000 円

5 月 寮の裏にて寮生による家庭菜園開始

6 月 給湯配管修繕 236,500 円

7 月～ 家庭菜園にて野菜収穫

9 月 BS・CS アンテナ交換 62,700 円

10 月 ボイラー不着火緊急調査 60,500 円

10 月 消火器交換 9,350 円

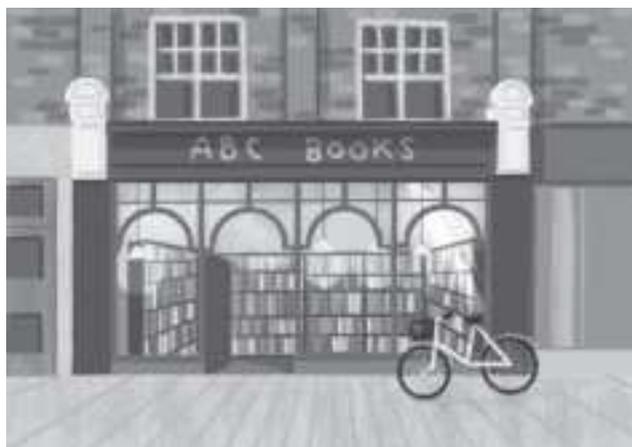
11 月 台所水栓交換 20,900 円

11 月 23 日 寮祭 参加者 27 人 (招待 12 人、寮生 15 人)

11 月 庭木剪定 40,000 円

### 2022 年

2 月 19 日 卒寮式および懇談会 (招待 11 人、寮生 11 人)



## 編集後記

❖ 寮誌編集を担当いたしました、9号室の北大農学部3年の熊谷太司です。編集をする過程で寮生の方々の内容を校正いたしました。皆が思い思いに素晴らしい文章を書いており、とても興味深いものばかりでした。

今年度は新入寮生が7人もおり、寮生が気に入って入替わったのですが、よくよく考えてみれば私の在籍していた3年間を通して、寮の形態も時代に影響を受け変化してきているように思います。特に新型コロナウイルスの影響は大きく、脱衣所のマットやキッチンの食器ふきがなくなり、共有エリアのトイレの封鎖、オンライン授業用の通信機器の整備など、私の入寮当初とは変わってしまったものが多々あります。

もちろん迅速に対応して下さった理事の皆様や財団の方々への感謝もありますが、私はそんな生活を通して、長い巖鷲寮の歴史の中で同じように受け継がれていく伝統のようなものと、時代に合わせて変化していつているものがあるのではないかと思います。

OB・OGの皆様の巖鷲寮と今の巖鷲寮は違っているかもしれませんが、今日まで寮が存続し、食・住を提供いただけるのも、佐藤先生と新渡戸先生方、及び

OB・OGの巖鷲寮への思いありきであるので、私もその思いを引き継いでいけるよう寮生活を過ごしていきたいと考えております。

私事ではありますが、1年ほど務めた寮長をおえ、寮務の引継ぎも完了し、この寮誌の編集が寮での最後の仕事になると思います。すでに研究室にいることが増え、寮には食事と睡眠をとりて帰るような生活になりつつあります。それでも後輩たちは素晴らしい方々ばかりなので、これからの巖鷲寮を引っ張ってくださると思います。私は陰ながら巖鷲寮の時代に合わせて変化する様子を見守っていこうかなと考えています。

最後に、寮誌の制作に携わった方々、寄稿いただいた方々、OB・OGの方々に感謝申し上げます。

(熊谷 太司)

❖ コロナ禍で大変な時代を過ごしています。とはいえ私が大学を卒業した1995年も1月に阪神大震災、3月に地下鉄サリン事件が起きて、「これからどういう時代になるのか」と一抹の不安を覚えながら社会人になった記憶があります。もはや社会を大きく変化させる出来事が数年おきに起きる時代なのかもしれません。寮誌編集委員を頼まれなが

ら期待に添えませんので、今年は拙文を寄稿しました。

(塚本 博隆)

❖2022年2月、北京冬季五輪開催。進んで行くうちに色々な問題が発生する大会に。純粋にスポーツを楽しむ大会でなくなったのが残念です。

50年前の1972年2月は札幌で冬季五輪が開催されました。当時ちょうど卒業時であり、アルバイトで参加(フランス国宿舎、厚生年金ホール)したことを思い出しています。普通知り合う事のないアスリートはじめ色々な国のスタッフとの会話(カタコトの英語?に加え身振り手振り?)、記念のバッチの交換等、短期間に得難い経験をしました。その経験で思ったことは、話始めるキッカケとして共通項は何かということでした。これはそれ以来絶えず気にしていたことです。一つとしては同じ故郷という点や同じ釜の飯を食ったという点、意外と話が続きます。

閑話休題。

私の故郷(岩手県一関市)出身者で明治時代、ポーツマス講和条約時在米特命全権公使を務めた「高平小五郎」という外交官がいました。時を同じくして佐藤昌介が自費で米国に渡ってきていたようですが、如何せん生活に四苦八苦していた様です。佐藤昌介の父が高平の出身地(西磐井郡)の郡長を務めていたことが

あり、その縁で高平に息子昌介の話をしたようです。その後高平は邦字新聞の在ワシントン通信員の職を佐藤昌介に転換しています。生活が安定してからは、クラーク博士をニューヨークに尋ねたり、その後渡米してきた新渡戸稲造の面倒を見たりし、札幌農学校発展の礎を築いていきます。

更に加えますと、高平から日露講和会議に尽力した米大統領セオドア・ルーズヴェルトに初版本の「武士道」(新渡戸稲造)を進呈した話も残っています。大統領の日本理解への強い影響を与えた本としても紹介されています。

ちょっとした繋がりが人生や事業成功の諸端を開いていきます。「縁侮るなかれ」といったところでしょうか。そう考えると、このコロナ禍、東京一心会開催も2年開いていませんので、今年の秋ごろには何らかの形で開催にこぎつけ、色々話し合える場を設けたいと思っています。

(鈴木 文明)

❖今日は節分である。「鬼は外、福は内」の掛け声があちらこちらの家から聞こえてきそうだし、新しい習慣(?) 恵方巻をほおぼっている姿も想像される。

我が家の節分は、父が豆をまき、母と4人の子供が競って拾う楽しい行事であった。落花生と一緒に個包装のお菓子やチリ紙に包んだ小銭、たまには百円札が

撒かれることもある。薄暗闇の中で撒かれるので上を下への大騒ぎ。わずかしか拾えなかった弟や妹が泣き出すので、同じことが3~4回は繰り返えされて終了する。子供たちに聞いたら彼らの家庭でも同じように続けているという。

この冬、野沢温泉に出かけた。スキーの集まりであるが、私は道祖神祭りに興味を待っていた。国の重要無形民俗文化財に指定されていて、数えて42・41・40歳に25歳の厄年の男が加わって、初子の祝い、災い厄払いなどを祈願しながら、社殿の火入れをめぐって一般村民との攻防戦を繰り返る祭りである。コロナ感染の影響で昨年は中止、今年は野沢村民だけの参加で開かれ、地元ケーブルテレビでの中継となったが、本来のお祭りを取り戻したような熱気にゾクゾクした。

一方、約800年続いてきた八戸の冬の伝統的祭り『えんぶり』は全面中止となった。豊作祈願、「さあ、寒い冬が終わって春が来る」というワクワクした気持ちにさせる祭りが中止になってガッカリしている。参加者の安全をおもんばかっでの中止決定であり、祭りが町の観光・活性化に重きを置いてきている分、開催の判定基準もそうせざるを得ないのであろう。伝統の保存継承に影響を及ぼさないように披露の場を設ける必要がある。

本誌は佐藤・新渡戸記念寮の寮生・寮出身者・関係者からなるコミュニティと社会をつなぐミニコミ誌で、寮の創設から間もない1932年に寮生自身の手によって『五周年記念誌』として刊行されたのを始まりとしている。1942年から佐藤昌介先生の揮毫による『巖鷲寮誌』を誌名とするようになり、ほぼ毎年刊行されるようになってきた。吉田春雄さんの『バーチャル談話会のお誘い』にあるように、多くの会員が多くの談話会に参加していただけるなら、巖鷲寮誌とは別の新しい媒体が加わり、伝統の新しい発展的展開が期待出来るのではないだろうか。

(大久保 勉)

❖ 盛岡にある「深沢紅子野の花美術館」の紹介記事が掲載できて嬉しく思っています。この記事にある日曜図画教室の集合写真には思わず見入ってしまいます。自分の友人が何人か写っているということもありますが、この写真の時代背景のことを考えてしまうからです。昭和24年といえば戦争が終わったばかりの頃です。まれにみる凶作と合わせて敗戦直後には1000万人の餓死者が出るという情報が流れていました。食料事情から言えば世界最貧国の一つで育った子ども達の集合写真ですが、みんな良い顔をしています。やっぱり親も先生も頑張っていたので、その姿勢が子供たちの顔に

表れているでしょう。

私事になりますが私も絵が好きで、小学校のときに当時の松屋デパートの前に座り込んで、1日ばかりで岩手銀行の建物を写生しました。その絵が何かの展覧会に出されたとき、描いた本人がそばにいることにも気づかず、3人の審査員がしきりにその絵の空の色を議論していたことを覚えています。絵が完成したのが夕暮れどきで、空の色は青でも白でもない不思議な色合いになっていました。3人のなかに省三先生がおられたかどうか今では知るよしもありませんが、その辺の子供が描いた絵の空の色についてそれほど真剣に議論する大人たちがいることに衝撃を受けました。いまでは、そういう町で育ったことを誇りに思っています。なお、軽井沢にも省三と紅子の「野の花美術館」があります。

先輩の田村浩志さんがお亡くなりになったのは痛恨の極みです。田村さんのエッセイを最初に紹介されたのは同期の高木信夫さんですが、それとは別に奥

さんの和子さんがポーランド文学の翻訳家である関係で、私が所属する北海道ポーランド文化協会を通じて奥さんのお名前を存知上げていました。それでポーランドに「連帯革命」が起こった1980年に、浩志さんご一家と私は同じ国に居あわせていたことがわかり、浩志さんにエッセイを書いていただきました。本誌に「エッセイ広場」ができ、今回もご寄稿いただきましたが、校正に反応がなく心配していたところ、「年末に心臓大動脈弁の手術を受けたあとしばらく快方に向かっていましたが、1月に入って脳梗塞を発症し、2月2日に帰らぬ人になりました。」というご連絡をいただきました。和子さんのお心遣いにより、その遺稿が本誌に掲載されることになりました。こうして編集を終わってみて、故人はこのエッセイの最後でお別れの挨拶をしたかったのだ、ということに気づきました。どうか心安らかに旅をお続け下さい。

(小笠原 正明)

## 巖鷺寮誌 2021年度

2022年3月31日発

編集委員：熊谷 太司、塚本 博隆、鈴木 文明、大久保 勉、○小笠原 正明

(○印：編集長)

発行所：一般財団法人巖鷺寮

発行人：一般財団法人巖鷺寮・巖鷺寮一心会

〒060-0007 札幌市中央区北7条西18丁目 佐藤・新渡戸記念寮内

郵便振替 02740-1-19776 (加入者名：一心会 代表 小笠原 正明)

印刷所：柵アイワード

© M. Ogasawara, 2022



## 一般財団法人巖鷲寮

〒060-0007 札幌市中央区北7条西18丁目4-23

ホームページ：<http://www.ganjuryo.jp/>

メールアドレス：[info@ganjuryo.jp](mailto:info@ganjuryo.jp)